

2015-16 年度 国際ロータリー第 2690 地区
地区補助金奨学生報告書 第三回 (2016 年 3 月～2016 年 5 月)
久野 愛

1. 学業面での成果

2 月末から執筆を開始した修士論文を、無事に 5 月の末に提出することができました。論文は”Growing up with one parent: its association with psychotropic drug use in young adulthood - A register-based study in Sweden”というタイトルで、17 歳までの家族構成の変化(両親の離婚・死別等)が 35 歳時に抗うつ薬・抗不安薬・睡眠薬・抗精神病薬の処方を受けるリスクの増加につながるおそれがある、という内容を扱いました。先行研究を読み始めるときりがなく、自分が行った統計分析の結果と心理学・社会学・ライフコース疫学の各種の理論をどのように照らし合わせ、どのような議論を展開できるか、また限られた時間の中で文章を完成させるべく、黙々と机に向かう日々が続きました。

無事に論文を提出したあとは、学位審査のための準備を行いました。私が所属する CHES(Centre for Health Equity Studies, Stockholm University/Karolinska Institutet)では、審査を受ける学生 1 名(Defendant)に対し、論文の内容を審査する教授 1 名(Examinator)、口頭試験を行う学生 1 名(Opponent)、Opponent の審査を行う研究者 1 名(Reviewer)により学位審査が行われます。これは一般的なスウェーデンの修士号の学位審査と同じ方法です。各学生は論文の提出後に Defendant として自身の論文の口頭試問に向けて準備を行うと同時に、あらかじめ指定されたクラスメイトの論文を読み、Opponent としてその論文を評価し、不明瞭な点や改善点の指摘を行います。つまり、学位審査では論文の執筆者としての審査の他に、専門的見地からの批評ができるかについても審査されます。論文の提出から学位審査までの約 1 週間でクラスメイトの論文を読み、Opponent としてのプレゼンテーションに備え、自分自身の論文もあらためて客観的に読みなおす作業は、それまでの 3 ヶ月とは全く違う勉強を行っているようで、少し楽しく感じました。

5 月 31 日に Opponent としての審査・6 月 1 日に Defendant としての自分の論文の審査が行われました。無事に両方の審査に合格することができ、卒業が決まりました。

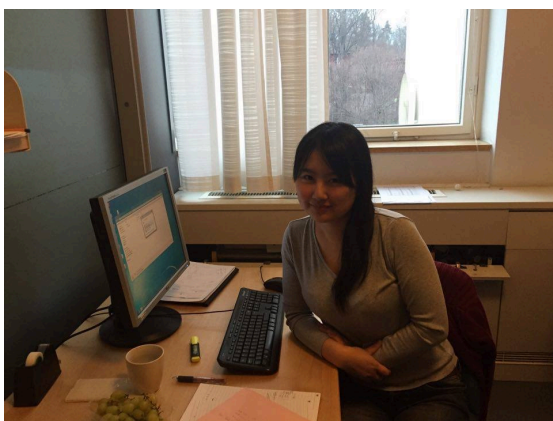


写真: CHES の研究室にて

2. 受け入れ地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

3 月末に Stockholm-Sergel ロータリークラブでのカウンセラーである Fleetwood さんとお会いし、Fleetwood さんがお仕事をされている Sweden-Japan Foundation の見学を行いました。Sweden-Japan Foundation は主に学術分野での日本とスウェーデンの交流を支援していて、

スウェーデン王立理工学アカデミー(Royal Swedish Academy of Engineering Science)と協力し、2月にはスウェーデン国王の来日のサポートを行ったと教えていただきました。日本とスウェーデンは特に物理・工学分野での学術協力が盛んだと聞き、とても興味深く思いました。その後、Stockholm-Sergelの昼食定例会に参加しました。Stockholm Sergel ロータリークラブでのプレゼンテーションは、スケジュールをずらすことをお願いされ、6月10日に行うことになりました。

一方、Stockholm-strandのロータリークラブでは、4月末の朝食会であらためて自己紹介・鳥取ロータリークラブの紹介および私の研究の紹介を行いました。日本(東京・大阪・京都)に旅行や出張に来たことがあるロータリアンの方が2名ほどいらっしゃり、日本の桜の話や日本食についての話をすることができました。また、鳥取の冬の寒さや曇りがちな気候が北欧の冬とよく似ていることや、スウェーデンでは決してみることの出来ない砂丘の景色など、鳥取とスウェーデンを比べて話したことがとても好評でした。

3. 直面した課題、問題点等

学業とは直接関係はありませんが、昨年9月から、修士課程に所属する学生(約18名)の学生代表(2名)のうちの1人として、定期的に学生の意見の取りまとめを行っていました。修士論文が本格的に始まって以降のこの3ヶ月間は、私が学生代表として何かができる最後のチャンスだと思っていたのですが、自分の論文で手一杯となり、クラスメイトのフォローや修士プログラムの改善のための意見交換といったことがなかなかできないまま、プログラムの修了を迎えることとなってしまいました。プログラムマネージャー(修士課程の責任者)と学生代表の面談を行い、6月半ばの修了までに、各学生にもう一度あらためて2年間を振り返ってもらい、次年度以降につながるような意見を募ることになりました。

また、カウンセラーのFleetwoodさんとはお会いすることが出来たのですが、Stockholm Sergel ロータリークラブでのプレゼンテーションが6月にずれてしまったことが問題点でした。Sergelのロータリアンの皆様にはすでに簡単な自己紹介と研究についての紹介はすでに行っているため、プレゼンテーションでは主に鳥取ロータリークラブの紹介を行う予定です。

4. 今後の目標

今後は6月末頃の修士論文の最終提出にむけ、見直しと訂正を行います。

また、修士論文の学位審査の際に、審査を行ってくださった教授からとても良いフィードバックを頂くことができ、短くまとめ直して学術誌に投稿しようとお言葉を頂くことができました。6月中にあらためて指導教諭と教授とミーティングを行い、投稿に向けた具体的な予定や、どのジャーナルを選ぶか、最大文字数が限られるため統計分析的をどのように絞るかなどを話し合うこととなりました。このようなチャンスをいただけることはとても光栄なことなので、今からとても楽しみです。

さらに、6月10日にStockholm Sergel ロータリークラブでのプレゼンテーション、6月17日にStockholm-Kungsholmen Frukostでのプレゼンテーションを予定しています。留学のしめくくりの時期となってしまいましたが、いつか鳥取に遊びに行きたいと思ってもらえるようなプレゼンテーションができればと思います。